

## 令和2（2020）年度 部局マネジメント方針

くりはし ひでき  
都市魅力産業スポーツ部長 栗橋 秀樹



### 仕事に対する基本姿勢及び部局の取り組み方針

都市魅力産業スポーツ部は、未来の東大阪市が活力を持ち元気な産業によってさらに発展していくことと、スポーツに関わる人や来訪者がもたらす活気により賑わいに満ちた都市へと成長させていくために、必要な組織機能を集約して再編し本年度に新設された部署であります。

本市に存在するたくさんの誇れる魅力をSNS等で広く発信し、海外からも認知されることで、さらなる人・モノ・情報の集積につながるよう、各種の取り組みを進めてまいります。

特に今年度は世界的な感染症の影響から、新しい生活様式を実践しながら停滞した経済活動を回復させていく重要な1年になることが予想されます。都市魅力産業スポーツ部の職員が一丸となり、関係機関とも連携しながらしっかりと取り組みを進めてまいります。

### 令和元年度の振り返り

#### ■ラグビーワールドカップの好機を生かした取り組み

##### ○パブリックビューイングの実施

2019年9月に開催されたラグビーワールドカップ2019は、花園ラグビー場で4試合が開催され、世界中から8万5千人を超えるラグビーファンが来場されました。また、同大会の公式ファンゾーンでも多くの方に来場していただき、日本代表対南アフリカ代表戦のパブリックビューイングでは1万2千人もの方が来場されるなど、本市に大きな人の流れと賑わいを創出することができました。大規模なスポーツイベントの開催はもちろんのこと、「試合のないときでも楽しめる施設」運営を目指す本市にとって、パブリックビューイングの実施による実績は、スポーツのまちづくりに向けて大きな可能性を感じるに十分なものでした。

##### ○東大阪産業フェア2019の開催

ラグビーワールドカップ2019の開催に合わせて実施した東大阪産業フェア2019では、布施駅周辺を会場として「モノづくりワークショップ」や、職人の技術を間近で見学・体験できる出張オープンファクトリー「こーばへいこう」などモノづくり発信イベントを開催し、延べ18,312の方に来場いただきました。また、ラグビーワールドカップ2019の出場国をは

じめとした海外諸国の領事館などが本市のモノづくりに興味を示していたことから、アメリカ合衆国・ドイツ連邦共和国の総領事館等とビジネスマッチングにつなげていくミートアップ（ビジネス交流会）を開催しました。

### ○商店街の賑わいづくり支援

国内外のラグビーファンがこのまちを訪れる商機を逃さずに賑わいをつくっていただくため商店街のにぎわいづくり事業に例年とは違った特別な支援施策を行いました。また、商店街の継続的な取組みにつなげるために、市内商店街に対しラグビーにかかるイベントコンテンツの派遣を実施するとともに、事業年度以降も商店街自身が「ラグビーのまち」を活かした商業振興を行えるようコーディネート支援を行いました。

### ○ひがしおおさか体感まち博 2019 の実施

ラグビーワールドカップの開催期間にあわせて2019年9月13日から11月4日に実施した体験型観光プログラム「ひがしおおさか体感まち博」事業において、54種類の全体プログラムのうち半数以上で外国人受け入れ可能プログラムを用意しました。また事前に案内人（プログラム提供者）に向けて英会話のセミナーを実施するなど、市内事業者の外国人へのおもてなし意識を向上させる契機となりました。実施期間中に延べ123回の体験プログラムを開催し、866名の方に参加いただきました。参加者の満足度やプログラム案内人の今後の継続実施意向も高かったことから、今後の更なる取組みにつなげてまいります。

## ■産業振興に向けた取組み

### ○スポーツのまちづくりの推進

生涯スポーツの国際総合競技大会であるワールドマスターズゲームズ（WMG）2021 関西が2021年5月に開催され、花園ラグビー場でラグビーフットボール競技を実施します。ラグビーワールドカップ2019においては、花園で開催された試合直後の余韻が残る中、2019年10月19日にWMGラグビー競技のプレマッチを開催しました。WMGの本番に向けた大会でしたが、全国から多くのマスターズラガーがラグビーの聖地花園に集い、花園ラグビー場を活用したスポーツツーリズムの可能性を再認識することができました。また、WMGのレガシー大会として創設した「マスターズ花園」を推進する役割を持つ花園友情大使に、元ラグビー日本代表のトンプソン ルーク選手に就任していただきました。

### ○医工連携等による、モノづくり企業の新たな分野進出・付加価値創出の推進

医工連携プロジェクト創出事業では、新たに「医療機器関連企業をターゲットにした市内モノづくり企業ツアー」を実施しました。医療機器企業側をモノづくり企業側に呼び込む取り組みは全国的にも珍しく、延べ27社の参加があり、109件の面談を実施しました。また、2020年3月には、大規模展示会が延期されたことに変えて、急遽本市がいち早く「オンラインによるマッチング商談会」を主催し、新たなビジネスマッチングの手法に取り組んだことから、医療分野における「モノづくりのまち東大阪」の認知向上と存在感を示すことができました。

## ○市内企業への雇用促進事業

就労促進施策で取り組んでいる若者や女性を対象とした就職支援施設「就活ファクトリー東大阪」では、隣接するハローワーク布施を始めさまざまな関係機関と連携し、託児付きの就活イベント「ハッピーJOBサークル」や、子どもと一緒に参加できるセミナーに加え、新たに子どもを預けて受講できる託児付きのセミナーなどを開催しました。また、近畿大学にて「市内企業と学生の交流会ワークショップ」や、大阪府立東大阪高等職業訓練校とCADの入門セミナー等を開催し、多くの方に参加をいただき、好評を得る結果でありました。「就活ファクトリー東大阪」を活用した方の昨年度の就職者数は639人と大幅な増加につながっており、今後の更なる取組みにつなげてまいります。